

# いりこ文化がつなぐ 地域の輪

## 特集 ④



(四国中央市)  
NPO 法人  
いりこ倶楽部  
山川 かずこ



いりこ倶楽部とは

四国中央市と聞いて何を思い浮かべますか？「紙のまち」を思い浮かべた方が多く、紙産業よりずっと昔からある独特な「いりこ文化」を思い浮かべた方は少ないかもしれません。

平成23年の夏、「この地域に人が興味をもって訪れて楽しんでくれるような事

をしたいね」、「何か昔から地元にあるいりこを題材とした活動をしたいね」といった想いより、いりこの問屋さんである後藤さん、割烹料理店の主人で料理人の細川さん、造り酒屋で地酒をつくる会社で働く私の3名から、いりこ倶楽部がスタートしました。

活動を始めて感じたのが、地元四国中央市でも、いりこの産地で、昔からいりこが生活の中で大きな役割を果たしてきたにもかかわらず、いりこの事が普段話題に上りません。若い人達には、いりこの事を言ってもよくわからないようです。しかし、この地のいりこは品質がよく味も風味も逸品です。その事を知って地元の誇りとしてほしいと感じました。

平成25年6月にはNPO法人の認証を受け、法人として設立しました。活動に共感し、会員も13名まで増え、ボランティア的な方も10名程います。それぞれ業種の違うメンバーですが、共通して言えるのが、いりこに関して熱いです。いりこ倶楽部は本業に無理がないように、お互いに気を配りながら運営しています。



のぼりもイベントを盛り上げます

いりことお酒のさんまい日和

結成して最初に取り組んだのが、業態の異なるところをまわって地域を知ってもらおう産業ツアーです。旅行社社務の会員の方にアドバイスをもらいながら、私達でできるツアーの形を模索しました。見て、食べて、体験がないとお客様を満足させる事が出来ないという事で「いりことお酒のさんまい日和」を企画したのです。そして、大人の修学旅行にして、知識を得るツアーにもしました。内容は川之江城でいりこの漁場の説明や周辺の歴史を学び、いりこの加工場見学、いりこの話や試食といりこ煎餅焼体験、そしていりこ三味の昼定食、その後には酒蔵元の蔵見学とお酒の試飲です。その間、いりこ倶楽部のメンバーが付きつきりで案内します。しかも複数で。それがお客様と1対1のお付き合いになり、感動を与えているようです。アンケートの回答率は90%以上で、また参加したのか、勉強になったというのが、ほとんどです。県内外はもちろんスイス在住の方にもご参加いただきました。最近では赤ちゃん連れのご家族の参加もありました。が、メンバーのサポートで無事に行う事ができ、お客様に喜ばれました。



いりこの加工場見学中



みんなで作ったいりこの料理

20人の会  
を始めま  
した。参  
加者は、  
いりこ飯  
の事を親  
から聞い  
ていたけ  
れど、自  
分では  
作ったり  
食べた  
りしない  
人達

いりこ飯をつくって食べる会

先程もありましたが活動をしていく中で、地元の人がほとんどいりこについて知らないという事がわかりました。これではこの地域へいりこが有名だと思っただけでなく、いりこを元にした文化がずっとあったという事を再認識してもらい、自信をもつていりこについて語れるようにしなければならぬと思えました。そこで地域のいりこ文化に詳しい方々に聞きとりをして知ったいりこ飯の作り方から、現代の生活で利用しやすく、美味しいいりこ飯のレシピを作りました。

平成28年の夏休みに  
は念願だっ  
た子ども達  
にいりこと  
親しんでも  
らうイベン  
トを実施す  
ることが出  
来ました。  
親子体験の  
いりこめし  
の会で、三島小学校の親子に対して実施  
しました。いりこ飯を皆で作って食べる  
ことはもちろんのこと、いりこの解剖教  
室も行いました。講師は、大人の修学旅  
行に以前参加して下さったお客様でし  
た。いりこの解剖教室をしているという  
お話を聞き、セッティングしたのです。  
解剖教室では、子どもも大人もとても楽



慣れない包丁も楽しい体験

親子教室「いりこめしの日」

でした。今では、皆で作ったいりこ飯を  
食べながら、楽しくいりこの話をしたり、  
世間話をしたりと良いコミュニケーション  
の場になっていきます。年に2回を予定  
して開催していますが、皆さん楽しみに  
待つて下さっています。家に帰って作っ  
たという話も聞いています。このよう  
にしていりこ飯がこの地域の食文化とし  
て再定着する事を願っています。

これからいりこ倶楽部

これで地域内外の人、若い世代へと  
いりこを中心としたイベントが揃ってき  
ました。今後は、昔ながらの年中行事な  
どが減ってきている現状を踏まえ、この  
地域のいりこ文化を次の世代に伝えてい  
くための民俗博物館のようなものを作る  
のが夢です。昔の事を再現し、それをイ  
ベントに出来ればと考えております。四  
国中央市に人が集うきっかけになるよう  
な場所にしたいです。そのためには引き  
続き昔の事を知っている人たちからの  
取りをすすめていきます。

また、最近では移住についても考えて  
います。この土地へ移住したい人を満足  
させるには何をすればよいのか。そうい  
う人達が集まってくると地元の人達も  
動き出すのではないのか。まずはこの地  
のいりこ文化に興味をもってもらおう  
こと。紙産業と融和した人々が往来する  
楽しい街になったらいいなと思いま  
す。

しく勉強しまし  
た。いりこ倶楽  
部として、お付  
き合いの中から  
新しい試みがで  
きた事は、メン  
バーにとつて充  
実感を味わえた  
出来事だったと  
思います。



いりこの解剖に大人も夢中